



**6節の問い** なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか。



↓2 製糸場で働く様子(長野県)



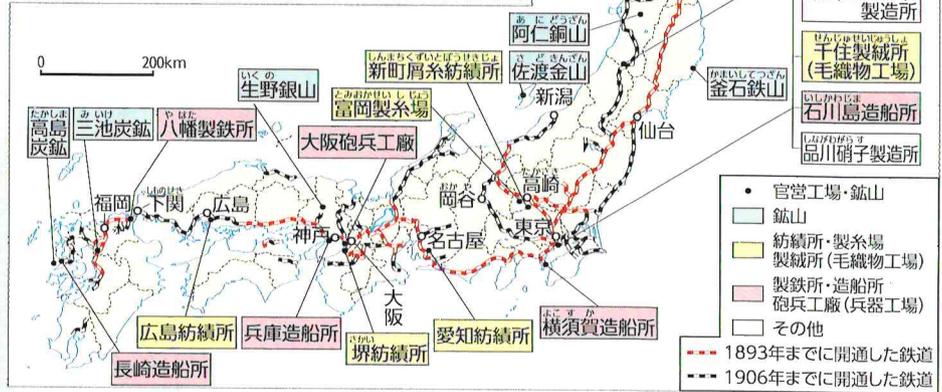
[長野県 市立岡谷蚕糸博物館蔵]



製糸の作業の変化は、産業の発展にどのような影響を与えたのかな。

←1 明治時代初期の製糸の様子(復元) [群馬県立日本絹の里蔵]

↓3 明治時代の産業と鉄道  
資料活用 鉄道と工場の位置にはどのような関係があるだろうか。



## 1 近代日本を支えた糸と鉄



日本の軽工業や重工業は、どのように発展していったのだろうか。

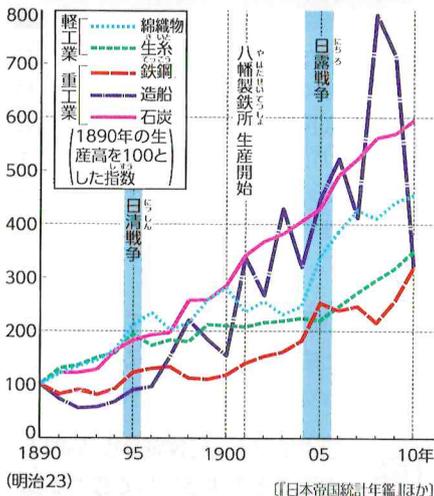
学習課題

### 日本の軽工業の発展

日本の産業革命は、欧米諸国を手本として、政府が主導する形で推進されました。まずは、繊維工業に代表される軽工業、次いで鉄鋼業などの重工業という、二つの段階を経て進みました。

軽工業の分野では、綿をつむいで綿糸をつくる綿糸紡績業と、繭から生糸をつくる製糸業が発達しました。これらの分野では、江戸時代から続く家内工業や工場制手工業のほか、輸入機械を用いた大工場での大量生産が行われ、日本の工業化の中心となりました。

綿糸紡績業では、1870年代から官営の紡績工場が設立され、1880年代以降、民間でも大阪紡績会社などの大規模な紡績工場がつくられて、インド産の綿を欧米製の機械でつむいで生産力を上げました。1890年代には、国内での綿糸生産量が輸入量を上回り、日清戦争後には、清や朝鮮にも輸出されました。一方、製糸業では、幕末の貿易開始以来、生糸が輸出品の第1位となっていました。長野県の諏訪地方や富岡製糸場がある群馬県などを中心に生産が進むなか、1890年代半ばには、機械による生産高が従来の手工業によ



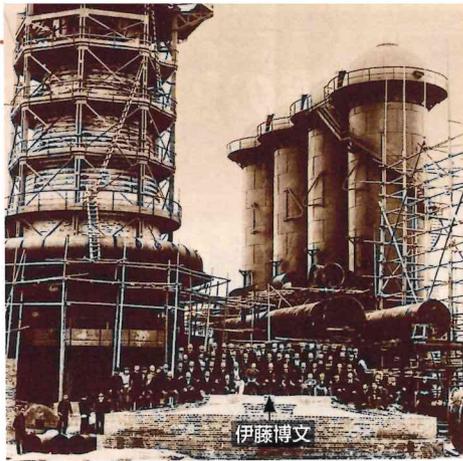
↑4 日本の軽工業・重工業の生産の変化

## 地域史

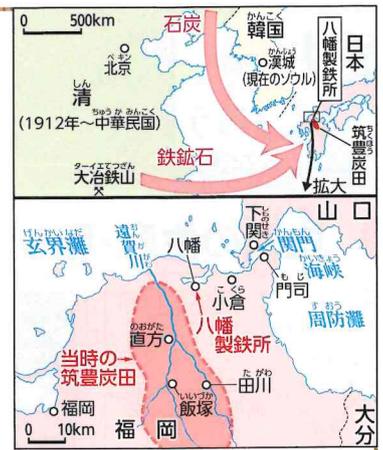
### 近代化を支えた 石炭と八幡製鉄所

現在の福岡県北九州市にあった官営の八幡製鉄所は、当時最先端のドイツの技術を導入してつくられました。八幡製鉄所では、近くの筑豊炭田の石炭や中国の鉄鉱石、後には満州の石炭も使われ、日本の重工業の発展を支えました。

石炭は、産業革命以後、蒸気機関に利用され、各国の近代化の土台となる重要な資源となりました。しかし、石炭の採掘には多くの人手が必要で、落盤や酸欠、有毒ガスの発生など危険が伴う重労働でもありました。それでも石炭産業は栄え、明治時代には筑豊炭田のほか、北海道の石狩炭田などに多くの炭坑都市が生まれ、街がにぎわいました。



↑5 官営八幡製鉄所 伊藤博文が視察に訪れたときの様子です。[日本製鉄株式会社 九州製鉄所蔵 1900年4月撮影]



↑6 八幡製鉄所の位置  
地図帳活用 小地公

る生産高を上回り、日露戦争後には世界最大の生糸輸出国になりました。

日本は、生糸・綿糸の輸出で得た外貨で、ヨーロッパから戦艦などの兵器を購入しました。また、織物業では日本独自の技術革新も起こり、豊田佐吉が独自に安くて効率的な豊田式自動織機を発明し、綿織物の生産量を一挙に増やしました。

### 日本の 重工業の発展

重工業の分野では、日清戦争で得た賠償金を使ってつくられた、官営の八幡製鉄所(福岡県)が

中心となりました。ここでは、中国から輸入された鉄鉱石や、筑豊炭田(福岡県)の石炭を使って、1901(明治34)年から鉄鋼の生産を始めました。政府が軍需産業に力を入れ、重工業が発達すると、それまで輸入に頼っていた機関車や戦艦なども日本国内で生産できるようになりました。交通・通信網もさらに発達しました。日清戦争後には多くの鉄道が開通し、1901年には青森~下関(山口県)間が全線開通しました。日露戦争後には政府の軍事上の目的などもあって、1906年に主要な鉄道が国有化されました。

### 財閥の登場

こうしたなかで、三井・三菱・住友や浅野・安田

などの実業家は、金融・運輸・貿易・鉱山などさまざまな分野の企業を経営しました。これらの実業家は、産業経済界を支配するようになり、財閥とよばれるようになりました。財閥の多くは、政府が売り渡した官営企業を引き受けるなど、政府と強く結びついていました。財閥をはじめとする富裕層は、日本の経済発展をけん引する存在となっていきました。

## 地域史

### 京都の近代産業育成と 伝統保護

京都では、幕末維新の動乱(→p.183)からの街の復興と近代化を目指し、琵琶湖から京都に水を引き、水力で工業を発展させる疏水事業が展開されたほか、御所や神社・寺院の保護が進められました。伝統的な絹織物である西陣織にも、欧米諸国のジャカード織機が導入されました。



↑7 西陣織をつくる様子(京都市、2021年)



確認しよう

近代日本の主な工業製品を、軽工業と重工業に分けて本文から書き出そう。



説明しよう

軽工業と重工業の発展が、軍備の増強とどのように関係していたか、説明しよう。

縄文  
弥生  
古墳  
飛鳥  
奈良  
平安  
鎌倉  
南北朝  
室町  
戦国  
安土・松山  
江戸  
明治  
大正  
昭和  
平成  
令和

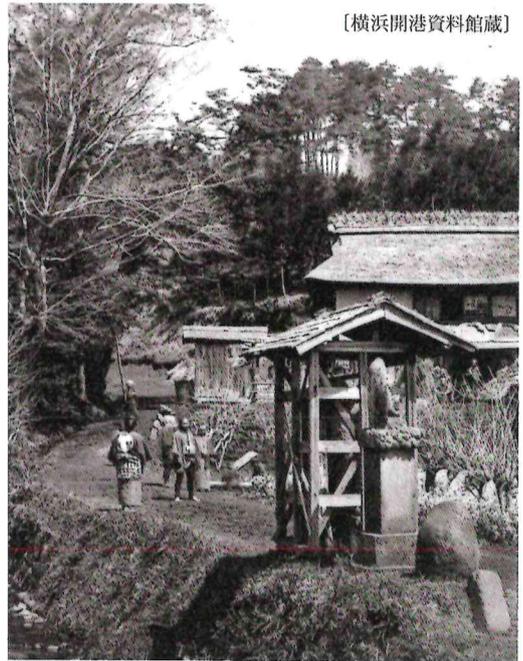
## 1 生糸の生産・取り引きで栄えた桑都 八王子



↑1 八王子と横浜をつないだ「絹の道」



↑2 養蚕農家(左、1900年ごろ撮影)と↑3 八王子からの絹を運んだ街道(右、1860年ごろ撮影) 開港後に外国との生糸貿易が始まったことで、八王子と横浜を結ぶ街道は、輸出用の生糸を運ぶルートになりました。このことから、後にこの街道は「絹の道」とよばれるようになりました。生糸商人が多く集まっていた鎌水の風景写真には、八王子から横浜へ向かう道が写っています。



【横浜開港資料館蔵】

### 外国人が見た幕末の八王子

養蚕と生糸の生産工程に興味のある人なら、八王子かその近くの農家を訪問することほど楽しいことはない。…蚕の生命を維持する桑の木がいとも無造作に、生けがきのように植えられているのに目を留めて驚く。

【F.ベアト写真集1 幕末日本の風景と人びと】より、一部要約・抜粋

### 歴史プラス 生糸で財を成した横浜商人

八王子の生糸は横浜港から外国へ輸出され、横浜の商人は生糸貿易で大きな富を蓄えました。なかでも原善三郎とその孫娘の婿富太郎は、生糸の生産まで手がけ、後に富岡製糸場などを所有し、生糸貿易で財を築いた豪商として有名です。



↑4 三溪園(横浜市) 原善三郎が土地を買い、富太郎(三溪)によってつくられました。

## ① なぜ八王子は生糸の生産・取り引きで発展したのかな？

米づくりに適さない土地だった八王子では、古くから桑が栽培され、養蚕が盛んで、「桑の都」(桑都)とよばれていました。さらに八王子はほかの生糸生産地(現在の群馬県や長野県、山梨県など)と江戸を結ぶ地点にありました。そのため、江戸時代から生糸の取り引きが盛んで、多くの生糸商人が活躍しており、特に八王子の鎌水の商人は有名でした。開国前にもかかわらず、鎌水には、西洋風の建物がつくられていました。

横浜の開港によって生糸の輸出が始まると、各地で養蚕ブームが起こりました。八王子の生糸の生産・取り引きも

増え、「絹の道」は生糸を積んだ荷車でにぎわいました。生糸商人や養蚕農家は利益を得るだけでなく、欧米の文化や思想に触れる機会も得ました。やがて鉄道が開通すると、「絹の道」と共に栄えていた商人は没落しますが、生糸の生産は増え続けました。

現在、養蚕農家は激減したものの、八王子では絹織物を主とした伝統ブランドが受け継がれており、「八王子ネクタイ」などが有名です。また、「絹の道」の一部は文化庁選定「歴史の道 百選」に指定され、現在でも当時のおもかげを残す街道を歩くことができます。



？  
疑問

生糸は、開国してから日本の重要な輸出品となり、特に八王子が取り引きで栄えたそうだよ。なぜ、八王子で盛んになったのかな。また、日本の製糸業はどのように発展したのかな。

主な関連事項と関連ページ

商品作物 p.147 殖産興業 p.188  
横浜港 p.176 自由民権運動 p.200~201  
日本の産業革命 p.214~215

## 2 日本の製糸業の発展



↑5 鉄道と生糸の輸出 富岡製糸場の生糸は、鉄道が敷かれる前は横浜まで船で運ばれていました。1884年に鉄道が高崎まで開通してからは輸出量が急増しました。

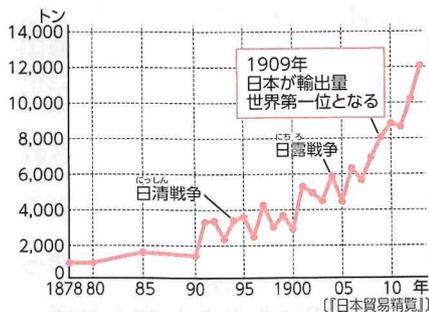


[[上州富岡製糸場]東京都 国立国会図書館蔵]



↑6 富岡製糸場 群馬県の富岡に官営模範工場として開設され、日本の製糸業の発展に役立ちました。

←7 織物業に使われたのこぎり屋根の工場(群馬県桐生市) 北向きの窓は光の強さが安定するので、採光に効果的な設計でした。



↑8 日本産生糸の輸出量の推移

## 2 日本の製糸業はどのように発展したのかな？

幕末の貿易開始以来、生糸は日本の主要な輸出品でした。官営の富岡製糸場などを模範として、1870年代の後半には群馬・長野・山梨県を中心に、水力や蒸気機関を利用した機械で生産する製糸場が次々に設立されました。1882(明治15)年に日本銀行が設立されると、生産規模を拡大するために必要な資金が供給されるようになり、製糸業界も活性化しました。また、農家にとって、原料となる繭の供給は重要な現金収入になりました。

製糸業や紡績業など、軽工業中心の産業革命が進化した日清戦争前後の時期には、民間の鉄道会社の設立ブームも

起こりました。日本では、産業革命が始まる以前から鉄道が開業していましたが、横浜への生糸の輸送のように、貨物輸送による利益を目指した鉄道建設が相次ぎ、これらが各地の産業の機械化を促していくという相乗効果がありました。機械による生糸の生産は、作業の効率が上がって生産量が増えるだけでなく、製品の品質を飛躍的に向上させ、国際競争力も高まりました。日本の生糸や絹織物の輸出先は主に欧米諸国であり、特にアメリカの経済発展に伴って、アメリカへの輸出が中心となっていきました。生糸の束には「RAW SILK(生糸)」などの表示とともに、生産地名や、大相撲など日本を想起させる絵が描かれたラベルが巻かれていました。

しづさわ えいいち  
渋沢 栄一

1840~1931

### 近代日本の産業のいしずえを築いた実業家

埼玉県の農民出身で、明治維新後に大蔵省(現在の財務省)の官僚となった渋沢は、政府の殖産興業政策の柱である近代的な製糸場の設立にも関わりました。大蔵省を辞職した後は、日本初の銀行を設立し、ここを拠点として、秩父鉄道や日本郵船、大阪紡績会社(現在の東洋紡)など多くの企業の創設に携わり、日本の経済界の指導者として、昭和初期まで活躍しました。関東大震災の復興(→p.245)や、アメリカなどの民間外交にも貢献しました。

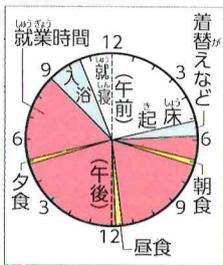




↑1 1903年に開かれた内国勧業博覧会の様子(大阪市天王寺) 博覧会では最新の技術が紹介されました。『第五回内国勧業博覧会真景』株式会社乃村工藝社蔵



↑2 都市下層民の暮らし(1903年)



女性工員の生活

(製糸職工)の労働時間は忙しいときには朝起きてすぐ仕事に取りかかり、夜の12時まで働くということも珍しくない。食事は大麦を粗くひいたものに米を4割混ぜたもので、寝室はまるで豚小屋のように汚い。…もしさまざまな労働者をみて同情すべき者を挙げるならば、まず第一番目に製糸職工が挙げられる。(横山源之助『日本之下層社会』より、一部要約・抜粋)

↑3 女性工員の一日常



女性工員は、一日どのくらいの時間働いていたのかな。

2 変わる都市と農村

6筋の問い なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか。



工業化の進展は、人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。

列強への仲間入り

日露戦争での勝利は、日本の国際的な地位を高めました。また、工業化の進展で生産力が上がり、輸出も盛んになりました。こうした状況で、国民は、「欧米諸国の圧力のなかで日本の独立を保とうという、開国以来の目標は達成された」と考え、「日本は列強の仲間入りをした」という意識をもつようになりました。一方で、戦争のために軍事費が急増し、それに伴って税金が高くなるなどしたため、人々の生活はなかなか向上せず、貧富の差が拡大するといった問題も出てきました。

農村の生活の変化

明治時代には、土地を手放して地主の下で小作人となって生活する農民が増加し、明治時代後期には、全国の耕地の約半分が小作地となりました。この背景には、不景気で収入が減少しても地租額が変わらなかったこと、地租改正で農地(耕地)の売買が可能になったため、地主に土地を売る人が増えたことなどがありました。地主のなかには、その富で起業したり、株に投資したりして資本家になる者も現れました。日清戦争後は、地主たちが中心となって、米の品種改良や農作業の効率化、耕地整理など、農業の近代化が進められ、副業として養蚕を行う農家が増えました。



↑4 当時の社会を風刺した絵 資料活用 この絵は当時の社会の何を風刺しているのだろうか。『東京パック』埼玉県さいたま市立漫画会館蔵 1908年]

足尾銅山は、明治時代に急激に発展し、日本の近代化を支えました。しかし現地では、鉱毒が川に流れ込んだうえ、伐採と煤煙によって森林が枯れ、洪水発生の原因となりました。その結果、洪水で渡良瀬川の流域に鉱毒が流出し、農漁業に深刻な被害がもたらされました。この問題の解決に全力を注いだのが、栃木県出身の政治家田中正造です。田中は足尾銅山の操業停止を求め、天皇への直訴など反対運動を行い、世論に強く訴えた結果、多くの政治家や宗教家なども運動に参加しました。内村鑑三(→p.210)などの宗教指導者は、義援金募集、病院設置、布教活動などを行いました。政府は、渡良瀬川の中流域に遊水地をつくり、洪水のときに鉱毒を含む水があふれ出ないようにしましたが、谷中村は遊水地のなかに消えました。



↑5 当時の足尾銅山(『風俗画報』増刊 1901年)

→6 田中正造

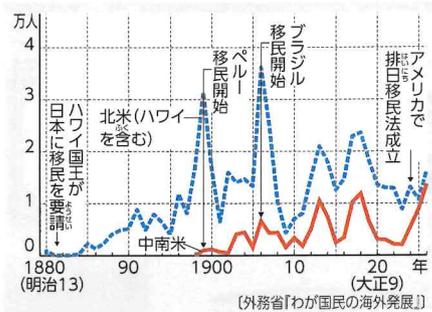
(1841~1913) 田中正造の遺骨は、共に鉱毒被害と闘った村々に分けられました。[国立国会図書館蔵]



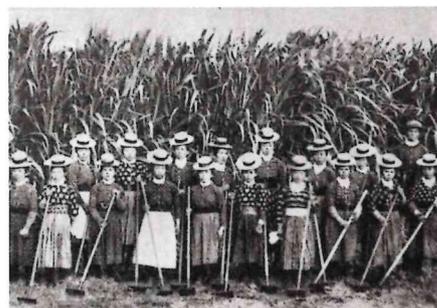
↑7 鉱毒の被害地域

一方、小作人の生活は十分に改善されませんでした。このため、産業の発展に伴い、多くの工場が建つようになると、小作人の次男・三男や娘たちの多くが、労働者として働きに出ました。

また、日本国内で十分に暮らしていけない人々のなかには海外に移住する者もいました。特に、ハワイを含むアメリカに多くの人が渡りました。しかし、後にアメリカが移民を制限すると、移民先はブラジルや満州などに変わっていきました。



↑8 日本から海外への移民数



↑9 ハワイに渡った日本人移民 失業者の対策に悩む日本政府は、さとうきび畑で働く労働者の不足に悩むハワイに移民を送り、移民が働いて得た外貨を故郷に送ってくることに期待しました。

小作人になる農民が増えた理由を確認しよう

工業化の進展によって農村の生活はどのように変化したのか、「光」と「影」の両面から説明しよう。

社会問題の発生

工業の発展に伴って、多くの社会問題が発生しました。特に労働者の労働条件は悪く、安い賃金で長時間働かされていました。その実態が新聞などで報道されると、改善の必要が叫ばれました。1911(明治44)年、労働時間制限、深夜業廃止、12歳未満の子どもの労働禁止などを定めた工場法が制定されましたが、さまざまな条件があり、十分な内容ではありませんでした。このようななか、1901年、最初の社会主義政党である社会民主党が生まれ、社会主義の運動も始まりました。しかし、政府はこれを厳しく取り締まりました。1910年、政府は天皇暗殺を計画したという容疑で、計画に無関係な者を含め、各地で社会主義者など数百名を逮捕し、翌11年に幸徳秋水ら12人を処刑しました(大逆事件)。また田中正造は、足尾銅山の鉱毒被害に対して初の公害反対運動を行い、足尾銅山の操業停止や被害者の救済を訴えました。

縄文  
弥生  
古墳  
飛鳥  
奈良  
平安  
鎌倉  
南北朝  
室町  
戦国  
安土桃山  
江戸  
明治  
大正  
昭和  
平成  
令和



東京開闢名勝京橋石造銀座通り  
両側煉化石商家盛栄之図

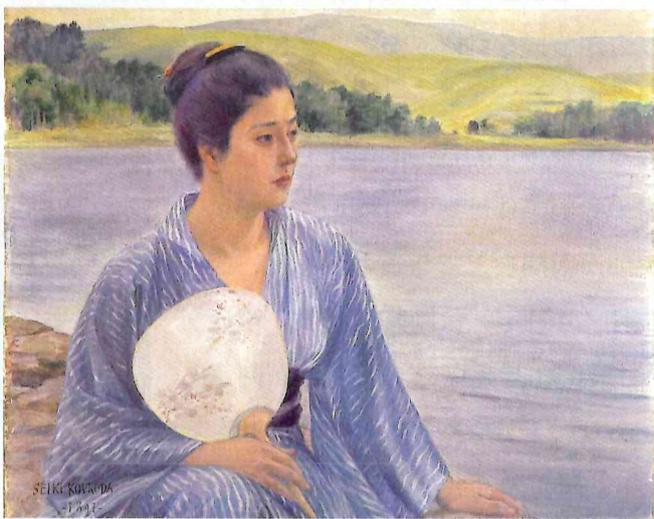
↑1東京の銀座を描いた錦絵 文明開化の様子を、ほかの地域に伝えるためにつくられました。【東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図】愛知県 マスプロ美術館蔵

## 広がる欧米文化と 変化する伝統文化

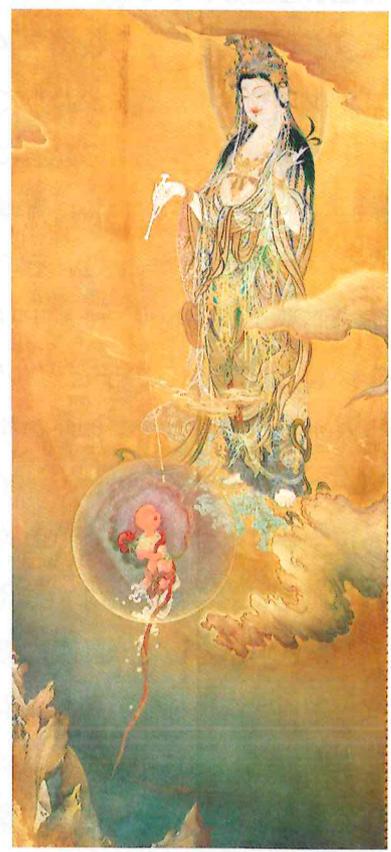
江戸の町の様子(→p.155)と比べて、どこが大きく変化しているかな。



↑2海外の万国博覧会に出品されたつぼ 1867年のパリ万国博覧会には、薩摩藩が薩摩焼を出品して高い評価を得ました。その後の万国博覧会での日本からの出品などをきっかけに、ヨーロッパで日本ブームが起こりました。



↑3黒田清輝作『湖畔』 フランス留学中に絵画を学んだ清輝は、印象派の影響を受け、外の光を表現した明るい色彩の西洋画を描きました。【東京文化財研究所提供 1897年作成】



→4狩野芳崖作『悲母観音』 フェノロサに勧められ、芳崖は遠近法などを取り入れた『悲母観音』を描きました。この作品は、新しい日本画の道を開きました。【東京藝術大学提供 1888年作成】

→5 フェノロサ(1853~1908) 1878年、アメリカから来日しました。日本美術を高く評価して新しい日本画の制作活動を支援し、岡倉天心らと東京美術学校の設立にも努めました。



←6 高村光雲  
作『老猿』  
〔東京国立博物館蔵 高さ90.9cm〕



重文

↓→7 文章の言葉づかいの変化 江戸時代まで、文章の言葉づかいは文語体で書かれ、話し言葉(口語体)とは異なりました。明治時代になると、文章の言葉づかいも口語体にしようとする運動が起こり、文学作品にもその動きが広まりました。

【文語体】

石炭をば早や積み果てつ。中等室の卓のほとりはいと静にて、熾熱燈の光の晴れがましきもやくなし、今宵は夜毎にここに集い来る  
〔森鷗外「舞姫」(二八九〇年)より、抜粋〕



↑8 森鷗外  
(1862~1922)

廻れば大門の見返り柳いと長けれど、お歯ぐろ溝に灯火うつる三階の騒ぎも手に取る如く、明けくれなしの車の往來にはかり知られぬ全盛をうらなひて  
〔樋口一葉「たけくらべ」(二八九五年)より、抜粋〕



↑9 樋口一葉  
(1872~96)〔台東区立一葉記念館蔵〕

【口語体】

千早振る神無月も最早跡二日の余波となつた二十八日の午後三時頃に神田見附の内より塗渡る蟻、散る蜘蛛の子と、うようよよぞよぞよ沸出でて来るのは孰れも頭を気にし給う方々、  
〔二葉亭四迷「浮雲」(二八七七年)より、抜粋〕

吾輩は猫である。名前はまだ無い。どこで生れたか頼と見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いて居た事だけは記憶している。  
〔夏目漱石「吾輩は猫である」(一九〇五年)より、抜粋〕



←10 夏目漱石  
(1867~1916)

3

欧米の影響を受けた近代文化

6節の問い なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか。



学習課題

明治時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。

急速に発展する学問と技術

新政府は欧米諸国に追いつくために、中央集権化を進める一方、文明開化とよばれるように

欧米文化を積極的に受け入れ、教育にも力を注いでいきました。そして、蘭学などの江戸時代からの知識が土台となって、明治時代の学問・技術は急速に発展しました。また、憲法が公布されるころになると、一部の知識人を中心に日本の伝統文化を再評価し、欧米文化と結びつけて新たな文化へと発展させる動きが現れました。海外で開催された万国博覧会では、日本の伝統美術品が積極的に紹介され、重要な輸出品としてアピールされました。

伝統文化と欧米文化

日本の伝統的な美術は、アメリカ人のフェノロサらによって見直され、狩野芳崖らにより新しい日本画が誕生しました。フェノロサとともに岡倉天心は日本美術のすばらしさを海外に広め、横山大観らと日本画の発展に努めました。一方、欧米文化を受け入れる動きも進み、絵画では黒田清輝・高橋由一らが、彫刻では高村光雲・萩原守衛らが、欧米諸国から最新の表現方法を学び日本に広めました。音楽でも欧米の表現が取り入れら

正岡子規

1867~1902

日本語を変えた野球好きの俳人

正岡子規は、松山(愛媛県)の出身で、伝統的な短歌・俳句などに、現実を客観的に表す写生という近代的な表現方法を取り入れました。子規の提唱した写生文は、親友の夏目漱石らの小説にも受け継がれていきました。また、アメリカの野球を日本の人々に紹介することにも熱心で、「打者」「走者」「飛球」などは、子規が考え出した言葉です。



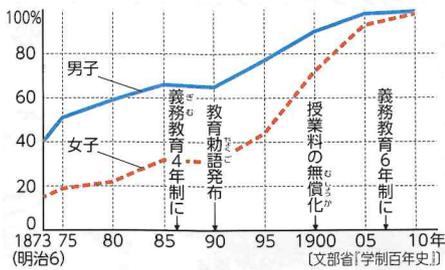
→11 野球のユニフォーム姿の子規  
〔愛媛県松山市立子規記念博物館蔵〕

1	緒文
2	1 弥生
3	2
4	3
5	4 古墳
6	5
7	6 飛鳥
8	7 奈良
9	8
10	9 平安
11	10
12	11
13	12
14	13 鎌倉
15	14 南北朝
16	15 室町
17	16 戦国
18	17 安土・松山
19	18 江戸
20	19 明治
21	20 大正
22	21 昭和
23	22 平成
24	23 令和





↑16 授業を受ける女生徒 資料活用 p.153の江戸時代の寺子屋と比べて、どのような点が変化したでしょうか。[東京都 教育政策研究所教育図書館蔵]



←17 就学率の変化 日露戦争後には、義務教育が4年制から6年制へと移行しました。

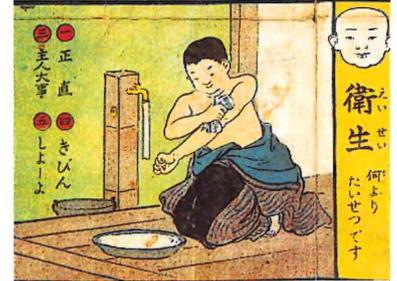
未来に向けて 「衛生」の登場と感染症への対応 平和・安全

幕末から明治にかけては、コレラや天然痘、ペストなど、多くの感染症が日本を襲う時代でした。右倉使節団(→p.194)の一員として欧米で医療制度を学んだ長与専斎は、帰国後、「健康保護」を意味する用語として「衛生」を採用しました。長与は医師、官僚として、国が医学などの科学的成果を生かした衛生政策を行うしくみづくりに努めました。そして、日本赤十字社など民間の組織と協力して、主にコレラ対策にあたりました。そのほかにも、明治政府の取り組みとして、衛生のために上下水道の整備などが行われました(→p.10)。

[[実業少年出世雙六]個人蔵 1908年]



↑18 長与専斎(1838~1902) 欧米諸国のように政府による感染症対策の導入を進めました。



↑19 子ども向けの衛生啓発 このころには、人々の間にも、衛生に気をつける習慣や健康に配慮する意識が育ち始めていました。

に始まりました。時間を守ることは学校だけでなく工場などでも教えられました。戦争報道などをきっかけに、新聞の購読者も増え、その影響力も拡大して、「日本国民」としての意識が、しだいに共有されていきました。

5 日清戦争の賠償金などによって学校の授業料が免除になると、就学率は急速に上昇し、日露戦争後には男女とも100%近くに達しました。帝国大学や専門学校などの制度が整えられ、慶応義塾、同志社、早稲田などの私立学校も登場しました。こうした上級学校に進学する人も増え、女子への教育も盛んになりました。このように学校を通じて、一般の人々の間にさまざまな知識が広まりました。

大学での研究が盛んになるなかで、19世紀末には世界的に評価される人物も登場しました。医学ではペスト菌発見の北里柴三郎、黄熱病研究の野口英世、赤痢菌発見の志賀潔などが活躍し、物理学では原子模型の研究で長岡半太郎が高い評価を受けました。北里は伝染病研究所を設立し、伝染病や感染症に対して、科学的な知識に基づいた治療や対策がとられるようになっていきました。

歴史プラス+ 国旗と国歌

「日の丸」は、日本の船と外国船を区別するために幕末から頻繁に用いられるようになりました。一方、「君が代」は、明治時代の初め、イギリス軍楽隊長に儀礼用の国歌があるか質問されたことをきっかけに、『古今和歌集』(→p.58)にある歌をもとにした歌詞と、軍楽隊長がつけた曲(後に変更)でつくられました。「日の丸」と「君が代」は、外国との国際関係において求められたものでした。

美術の発展において、伝統文化に関わった人と欧米文化に関わった人を、それぞれ本文から書き出そう。

「近代化」のために学校教育はどのような役割を果たしたのか、説明しよう。

縄文  
弥生  
古墳  
飛鳥  
奈良  
平安  
鎌倉  
南北朝  
室町  
戦国  
安土・松山  
江戸  
明治  
大正  
昭和  
平成  
令和



5章の問い

- 近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。

学習事項の確認

知識

世紀	時代	主な出来事	国際	○は世界の動き	朝鮮	中国				
19	江戸	1825 異国船打払令	開国	(イギリスの産業革命)	(市民革命)	朝鮮				
		33 天保の飢きん~39								
		37 大塩平八郎の乱								
		41 水野忠邦による天保の改革								
		53 ペリーの来航								
		54 日米和親条約								
		58 日米修好通商条約								
		尊王攘夷運動の高まり								
		66 薩長同盟								
		67 大政奉還								
	明治	68 戊辰戦争~69	文明開化	71 岩倉使節団~73	71 日清修好条規	朝鮮	清			
		68 五箇条の御誓文 明治維新								
		版籍奉還・廃藩置県								
		学制・地租改正・徴兵令								
		自由民権運動が始まる								
		75 A 樺太・千島交換条約								
		77 西南戦争								
		79 沖縄県の設置								
		80 国会期成同盟の結成								
89 大日本帝国憲法の発布										
20	明治	90 教育勅語の発布	75 B 江華島事件	76 日朝修好条規	朝鮮	清				
		90 第1回帝国議会の開催								
		軽工業の発達								
		94 領事裁判権の廃止成功								
		94 日清戦争~95								
		重化学工業の発達								
		労働問題・公害問題の発生								
		95 D 下関条約								
		11 (辛亥革命)								
		1901 C 八幡製鉄所の操業開始					F 台湾の植民地化	E 遼東半島返還	大韓帝国	日本領
		02 日英同盟								
04 日露戦争~05										
10 韓国併合										
11 関税自主権を完全回復										
05 ポーツマス条約										
三國干渉										
遼東半島返還										

1) 時代の特色を考えるにあたって、次の作業を行って、あなたの年表を完成させよう。

- 政治や国際関係の変化で重要であると考えられる出来事に赤いマーカーを、生活や社会の様子について重要と考えた出来事には黄色いマーカーをつけよう。
- 「章の問い」に対する考えをまとめるうえで、大切だと考える出来事を書き足したり、関係のある出来事どうしを矢印で結んだりしよう。

2) 地図中の[あ]~[か]の空欄に入るものを、年表内の下線A~Fから選ぼう。



節の振り返り

思考・判断・表現

それぞれの節の学習を振り返って、「節の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。

節の問い

- 1節 欧米諸国から始まった近代化とは、どのような変化なのだろうか。 p.162~175
- 2節 欧米諸国が来航するなかで、日本の社会はどのように変化したのだろうか。 p.176~183
- 3節 明治政府は、どのように国づくりを進めたのだろうか。 p.186~191
- 4節 日本の近代国家建設は、どのような成果と課題を生んだのだろうか。 p.194~203
- 5節 なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか。 p.206~213
- 6節 なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか。 p.214~223

① タイムトラベルを活用して振り返ろう。

タイムトラベル「明治時代」を見返して、前の時代から大きく変化したことや、重要だと感じたことを見つけよう。また、なぜそう考えたのか、根拠も踏まえて説明しよう。

タイムトラベルを見返す際は、キーワードを設定し、見方・考え方を働かせよう。



例えば「近代国家の建設」をキーワードにすると、こんなことに気がつくね。



見方・考え方

**例え**  
**推移** 戦いの役割を担う人の  
移り変わりに着目しよう  
p.134~135「江戸時代」と見比べて、戦いの役割を担う人はどのように移り変わっているだろうか。

見方・考え方 巻頭8

**比較、相互の関連** 近い時期のイギリスとの  
共通点に着目しよう  
p.168~169のイギリスの様子と見比べたときの共通点は何だろうか。また、その共通点は、近代国家の建設とどのように関連しているだろうか。

② ほかに人と話し合って「章の問い」を考察しよう。対話

思考ツール 巻頭9

①で見つけたことや左の年表にマークしたこと、近代国家の建設による社会の変化を考えるにあたって重要だと感じたことについて、あなたの考えを整理しよう。例えば右のように、「政治や制度」「経済や産業」「文化や生活」「国際社会」の視点に分けて考えよう。

グループになり、分類したなかから特に大きな変化だと感じたこととその理由を発表し、意見交換をしよう。

発表にあたっては、「節の振り返り」を参考にし、そのことの原因や背景、結果や影響も踏まえよう。

グループでの話し合いで気づいたことを踏まえ、「章の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。

重要だと感じたこと

【政治や制度】 (例)大日本帝国憲法がつけられた	【国際社会】
【経済や産業】	【文化や生活】

「章の問い」に対するあなたの考え

